

蒲郡北地区
かわら版
第7号

蒲郡北地区
まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

将来の蒲郡北地区と公共施設の姿について、皆さまとともに考えています。

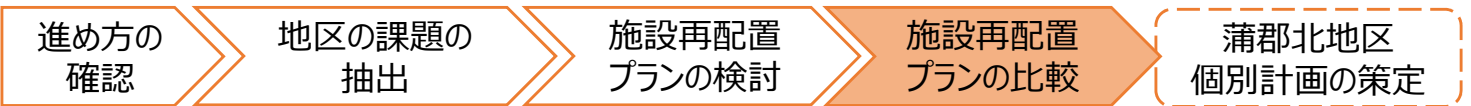
蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため、「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで地区内にある公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について皆さまに考えていただく機会として、「蒲郡北地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催してきました。12月26日(日) 最終回となる第6回ワークショップを開催しました。その内容を中心にこれまでいただいたご意見等をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われてきた内容について引き続きご意見を募集しています。「ご意見募集」をご覧ください。

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆さまからいただいたご意見を反映させた、蒲郡北地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。途中約1年間の休止期間があったものの、令和元年度から昨年12月末まで6回にわたる検討を進めてきました。第6回ワークショップでは、施設の再配置プラン案を比較しながらどの案が地区の将来の姿としてふさわしいかについて話し合い、施設の再配置を考える際に運営面等で配慮しなければならない事項（付帯事項）についても意見を出し合いました。



第6回ワークショップ 12月26日(日)開催

これまでのワークショップの検討を踏まえ、将来の蒲郡北地区の公共施設の配置としてふさわしい案について話し合いました。



地区内の小中学校・保育園・児童館・公民館の配置や活用方法を定めます。

7つの再配置プラン案の比較検討

ワークショップでは、地区内の課題や将来の姿について話し合い、それらを元に事務局が作成した7つの再配置プラン案を検討の対象としてきました。

A~Eの5案については令和元年度に参加者から頂いた地区の課題や解決策をもとに作成し、F・Gの2案については今後の施設のあり方を定めた小中学校・公民館・保育園のランドデザイン等をもとに作成しました。



ワークショップの中でいただいた皆さまの想い

ワークショップでは、地区の課題やその解決方法、蒲郡北地区の将来について話し合いを行ってきました。前回ワークショップでは、これまでの検討を踏まえ、将来の公共施設の配置としてふさわしい案を検討していただきました。全6回のワークショップで地区の皆さまからいただいた、蒲郡北地区に関する様々なご意見を以下にまとめました。

教育

小中の連携

- ・小中学校が連携できるとよい。
- ・地域子ども達がひとつの小中学校で学べるのもよい。

教育環境の向上

- ・小学校がクラス分けできる規模となるのは教育環境の面でよい。
- ・将来子ども達に良質な教育を受けてもらえるならば学校の統合も前向きにとらえられる。
- ・小規模校の特色である手厚い見守りを今後も維持していきたい。

地域での見守り

- ・地域で子ども達を育てる環境をつくりたい。
- ・小学校や保育園、公民館が1つになると子ども達を地域で見守ることができる。

子育て

送迎の負担軽減

- ・児童クラブと保育園が一緒になると送迎の負担が少なくなる。
- ・子ども達の移動を考えると児童クラブと小学校は一緒にあったほうが便利で安全だ。
- ・保育園と小学校が近くにあることで小学校入学時のハードルが下がる。
- ・ちゅうぶ児童館は公園に隣接しており利用しやすい。

利便性

跡地利用

- ・地区内の施設が廃止されるのであれば、その後も上手に活用してほしい。
- ・廃止後の建物を高齢者の拠点として活用したい。

アクセス

- ・高齢者向けの施設はできるだけ利用者の近くにあるとよい。
- ・コミュニティバス等によりアクセスの課題を解決することで、施設が離れても利用しやすくなる。

交流

居場所づくり

- ・中高年の憩いの場があると、退職後も地域の活動に参加しやすい。
- ・公民館に自由に入出入りできるフリースペースがあると学生や高齢者が集まる場となる。
- ・人のつながりを生むために、目的はなくても気軽に立ち寄れる場所があるとよい。

多世代交流

- ・施設の集合により利便性が向上し、多世代が交流できる場となれば地域の活性化につながる。
- ・地域の施設がひとつになると、世代間交流が生まれ、子育てがしやすくなる。
- ・現在の公民館は「高齢者の集会所」のイメージがあるので、親も含めた多世代の活動が重要だ。

地域交流

- ・地区単位で何らかの交流機能があるとよい。
- ・学校を整理する場合にも、コミュニティが壊れない配慮をしてほしい。
- ・学区と自治会がずれている地区があり困っているが、整理は難しい。
- ・公民館は歴史文化やお祭りなど地域活動の拠点だ。
- ・中学校の統合は、子ども達の体力（通学）や地域活動の面からも影響は少なそうだ。

地域の

つながり

通学

- ・交通安全と防犯、2つの側面から通学の安全を考えてほしい。

安全

防犯

- ・学校と他の施設が複合化する場合は、不審者などへの安全対策を行ってほしい。

- ・高齢者などサポートの必要な方を支えていきたい。

その他

- ・将来世代の財政負担軽減のため、施設の再編は仕方がない。
- ・公共施設がなくなるとコミュニティが崩壊するという危惧もあるが、一時的な現象ともいえる。子どもや孫のことを考え将来を設計したい。

ワークショップで期待の集まったプラン

子ども達の教育やコミュニティの維持、多世代交流など将来の地域の姿について多岐にわたるご意見をいただきました。蒲郡北地区については、コミュニティの規模や現在に至る背景が異なる3地区からなる地域であり、様々な観点から話し合いが行われました。教育環境向上の観点からは中部中敷地に北部・西部地区の新しい小学校を整備するF案等に対し期待するご意見が多かった一方で、コミュニティの形成過程を重視する観点からは北部小・西部小に施設を集めるC案や3小学校それぞれを維持するD案に期待するご意見もありました。

<重視したい想い>

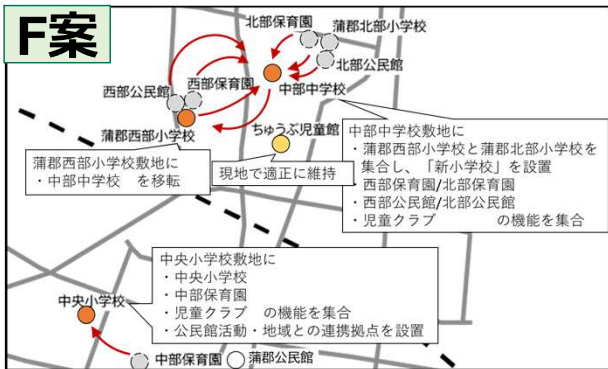
- ◎ 教育の観点や子ども達の成長を大切にしたい
 - ◎ 地域の多世代が交流する拠点を作りたい
 - ◎ 教育の適正規模化を図りたい
 - ◎ 将来の負担をなるべく減らしたい
 - ◎ 地域コミュニティを維持していきたい
 - ◎ 地域で子どもを見守る環境を大切にしたい
- などのご意見をいただきました。

これらの観点から次のプランに期待が集まりました。

F案・G案・B案 中部中敷地に北部・西部地区の新たな小学校を整備するプラン

<ご意見が集まった理由>

- 今後さらに人口減少が進むため、学校の再編により子ども達に同世代の交流機会を与えたい。
- 西部地区と北部地区の間である中部中学校敷地に“新しい拠点を”という考え方に好感が持てる。
- 特にF案については、西部地区に中学校が移転し、現在の3小学校区それぞれに学校を残すことができるため、地域の活気の維持につながる。

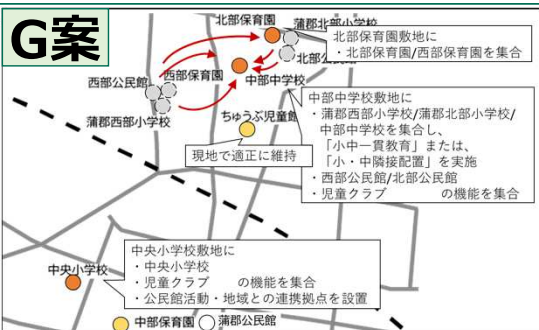


<概要>

- 中部中敷地に北部小/西部小を合わせた新しい小学校を設置します。
- あわせて中部中敷地に北部保育園/西部保育園、北部公民館/西部公民館、児童クラブを集合します。
- 中央小敷地に中央小、中部保育園、児童クラブ、公民館・地域との連携拠点を集合します。
- 中部中は西部小敷地に移転し、地域に根ざした学校づくりを行います。

いただいたご意見

- 将来を考えると統廃合は必要である。その場合、適正規模の中央小を分離するより、北部小と西部小を中部中敷地で統合したほうがよい。
- 北部小と西部小のどちらかに統合するのではなく、中部中敷地に新しい小学校ができる点が良い。
- 子ども達に負担を増やすより、未来のために新しい拠点を作りたい。
- 現在の小学校区に分断が生じない点が良い。
- 西部小敷地に中学校ができれば、地区に教育拠点が残り、地域の活力を維持できる。
- 学区が広がることで、小学生を地域で見守る関係が薄れてしまうのではと心配だ。



<概要>

- 中部中敷地に北部小/西部小、中部中、公民館、児童クラブを集合し小中隣接もしくは小中一貫教育を実施
- 中央小敷地に中央小、児童クラブ、公民館・地域との連携拠点を集合
- 保育園は北部保育園敷地と中部保育園敷地に整備

いただいたご意見

- 今の教育制度は古いものになっており、小中一貫教育にする方向が良い。
- 小中一貫の場合、中央小のみ別敷地だと教職員の負担になるのでは。



<概要>

- 中部中敷地に北部小/西部小、保育園、公民館、児童クラブを集合
- 中央小敷地に中央小、保育園、公民館、児童クラブを集合
- 中部中は蒲郡中へ集合

いただいたご意見

- 学校は集約されるものの、公民館施設が地元管理で北部・西部のそれぞれに残る点が良い。
- 中学校区が広がってもコミュニティとしては問題ない。

C案 地域の交流拠点をつくるプラン



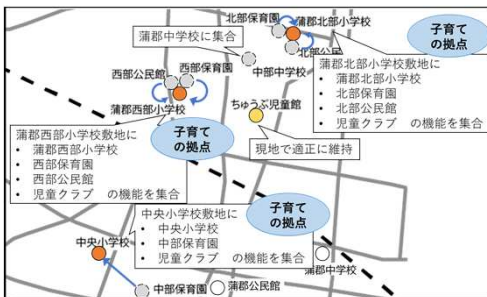
〈概要〉

- 北部小敷地と西部小敷地に小学校、保育園、公民館、児童クラブを集合
- 中央小は2つに分離し、西部小/南部小と集合

いただいたご意見

- 西部地区に学校を残したい。特に小学生は地域の中で育つことが大切である。
- 少子高齢化が進むため、小学校と公民館、保育園が隣接し世代間交流が育まれる点が良い。
- 現在、適正規模の中央小をあえて分離するのは好ましくない。

D案 地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン



〈概要〉

- 北部小敷地と西部小敷地に小学校、保育園、公民館、児童クラブを集合
- 中央小敷地に小学校、保育園、児童クラブを集合
- 中部中は蒲郡中へ集合

いただいたご意見

- 全世代にとって重要な「地域性」を維持できる。子どもを地域で見守りたい。
- 平等な教育という観点ではある程度の児童数があることが必要だと思う。

再配置を考えるうえで配慮すること

第6回ワークショップでは、再配置案の絞り込みを行うとともに公共施設の再配置を考える際に配慮してほしいことや、今後市に検討してほしいことについてもご意見をいただきました。

地域の活動・交流について

- 自ら選択して「地域」を超えた活動をしている方もいる。地域にこだわりすぎることなく、蒲郡全体で考えてもよいのでは。
- 小学校と公民館は地域のアイデンティティとして残してほしい。

学校

- 教員が教育に専念できるよう地域との連携を強化する必要がある。地域の中で子どもを育てる環境を作りたい。
- 小中一貫教育や隣接配置の場合、中央小のみ独立するのは不安なので、越境入学など柔軟な運用を検討してほしい。
- 今の中学校区に縛られることなく大胆に小学校区を編成し、小中一貫校の設置を考えてもよいのではないかと。

保育園

- 車での送迎を考慮し、駐車場の確保や安全対策を検討してほしい。
- 送迎の利便性や待機児童の可能性を考慮して配置を検討してほしい。

安全・安心

- 複合化には防犯対策等の安全確保が大切だ。
- 災害時を考えると、徒歩圏内に安全な場所があることが大切だ。

利便性

- 公共交通機関など施設へのアクセスを確保してほしい。
- 距離だけでなく、事故や防犯対策としてスクールバスの導入を検討してほしい。

皆さまからいただいたご意見を参考にして市は「地区個別計画」を策定します。

ワークショップに参加された方をはじめ、オープンハウス（パネル展示型説明会）でアンケートにご協力くださった方など、多くの方から貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき、まことにありがとうございました。

これまで皆さまからいただいた様々なご意見を参考にして、市はさらに検討を行い、将来の蒲郡北地区（中部中学校区）の公共施設の配置や活用方法を定める「地区個別計画」を策定します。

〈ワークショップに参加してくださった方の感想〉

- 蒲郡の将来を真剣に考えている方ばかりで、様々な考え方があった。
- 学校の統合は地区や学区の意見を聞いて検討してほしい。
- 中断前からの議論があったためか、どういった点を重視して議論すべきかが分かりにくかった。
- 誰もが自分の地域の施設を減らすことに対して嫌な思いを思うけれど、“無くす”のではなく“新たなスタート”として蒲郡北地区全体で前向きに良くしていく、と考えることができたらいいなと思った。

ご意見募集

- ワークショップで検討されてきた内容について
 - 蒲郡北地区のまちづくりや公共施設について
- 右の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、ご意見をお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部 公共施設マネジメント課
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1214
FAX 0533-66-1183
E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp



ワークショップでのご意見や資料等は、市ホームページに掲載しています。